

**U**RBAN

**D**ESIGN

**V**ISION

**Y**OKOHAMA

横浜都市デザインビジョン

個々の暮らしと横浜を豊かにするための羅針盤

概略版



横浜の都市デザイン＝

**横浜らしい豊かな風景をつくる**

## はじめに

### 個々の暮らしの豊かさが横浜を豊かにする 横浜の豊かさが個々の暮らしをより豊かにする

人の暮らしが集まるところが都市となり、都市において人は暮らしをおくります。それは、個々の暮らしが豊かになれば自ずと都市も豊かになり、豊かな都市においては個々の暮らしもより豊かなものになると言えます。

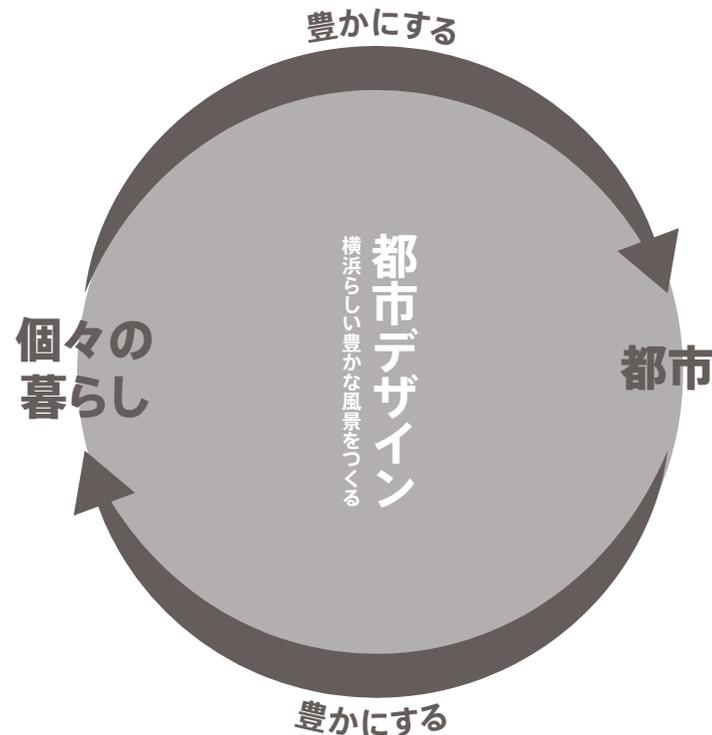
### 横浜の都市デザインは「横浜らしい豊かな風景をつくること」

横浜の都市デザインはこれまで、地域によるシンボルツリーの保全などの身近な活動から、ベイブリッジやみなとみらい21地区の景観形成などの大きなスケールの活動まで、大小様々に取り組まれ、たくさんの豊かな風景を横浜に生み出してきました。そうした風景には、建物や街並みだけでなく、日々の生活や仕事、喜びや楽しみなども含まれています。

### 個々が自分の暮らしを豊かにしようと取り組むことから

複雑かつ多様な時代と社会にあっても、個々の暮らしを豊かにするには、他者に頼るのではなく、個々が自分の暮らしをより豊かにしようと主体的に取り組むことが重要です。個々の主体的な活動と成果が横浜の豊かさをつくり、再び個々の暮らしの豊かさへと還元されます。

横浜らしい豊かな風景をつくる横浜の都市デザインとその取組を通して、個々の暮らしと横浜という都市が一続きのものになり、互いの豊かさが好循環する「都市デザイン活動が日常化している都市」を、本ビジョンを手にとった皆さんとともにぜひ目指したいと思います。



# 第1章 横浜の都市デザインの基礎

横浜の都市デザインについて

横浜は、「魅力と個性のある人間的な都市の実現」を理念として、都市デザインに取り組んでいます。個々の暮らしや置かれる状況が多様化している今、個々の活動とその成果がそのまま横浜全体の魅力と個性となり、活動が生き生きとしている都市は自ずと人間的な都市になるのではないのでしょうか。

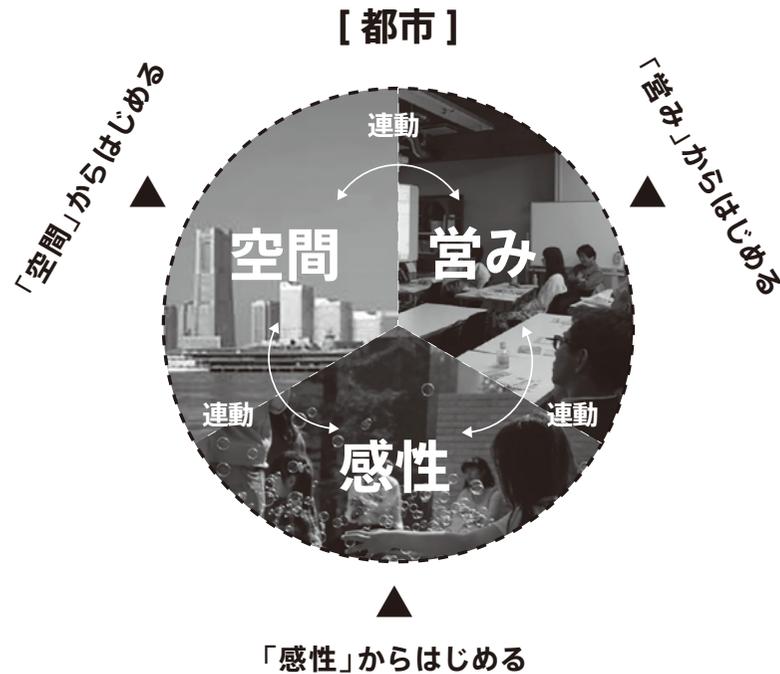
横浜の都市デザイン活動とは

1. 個々が自分の豊かな暮らしの風景を思い描くことから始める
2. 横浜らしい豊かな風景とは何かを共有し、取り組む
3. 市全域で取り組む
4. 異なる領域を横断しながら取り組む
5. 長期的に捉えて取り組む



## 第2章 都市への着眼点

風景について



【空間】 自然物・人工物などの物的要素により構成される都市基盤や環境  
例: 建物 街並み 道 広場 駅 港 緑地 海 川 山 など

【営み】 空間において展開される人々の生活・活動  
例: 働く 住む 商売 観光 娯楽 清掃 会話 移動 など

【感性】 人々が営みを行う際の動機や欲求、および営みを通して得られる感情・感覚  
例: 働きたい 住みたい 訪れたい 楽しい うれしい 心地いい 好き 驚き など

都市への着眼点は、都市の捉え方であり、風景に描き込む要素です。横浜の都市デザインは「空間」「営み」「感性」の3つの着眼点で捉えます。そして都市を風景という言葉に置き換えて、個々の暮らしに引き寄せて都市を身近なものとして考えます。

3つの着眼点は、個々が想い描く豊かな暮らしの風景に描き込む要素になります。  
個々が自分の豊かな暮らしの風景を想い描く際、共通した都市への着眼点をもっていることで、個々の想い描く風景が互いに重なり合い、横浜全体の風景になるのです。

3つの着眼点は、都市デザイン活動の出発点に選択肢を与えます。

3つの着眼点は、街並みや緑地などの「空間」から始める場合、住まい方や事業など「営み」から始める場合、住みたい・働きたいなどの「感性」から始める場合など、風景を想い描き始める際や実現に向けて取り組む際または取り組み直す際の出発点の選択肢にもなります。

3つの着眼点は、活動に総合性を与えます。

都市を3つの着眼点で捉えるということは、3つの着眼点に対して取り組むことでもあります。複合的な都市において豊かな暮らしの風景を実現していくためには、1つの着眼点のみに取り組むのではなく、3つの着眼点それぞれに取り組み、総合的な活動と成果にすることが重要です。

# 第3章 共有する価値

横浜らしい豊かさについて

個々が自分の豊かな暮らしの風景を思い描き、その実現に向けて取り組む時、大きな方向性として「豊かさとは何か」を共有することが重要です。横浜の都市デザインでは、次の5つの価値を「横浜らしい豊かさ」として考えます。5つの価値は、横浜がこれまで培ってきた価値であり、これからさらに高めていく価値です。

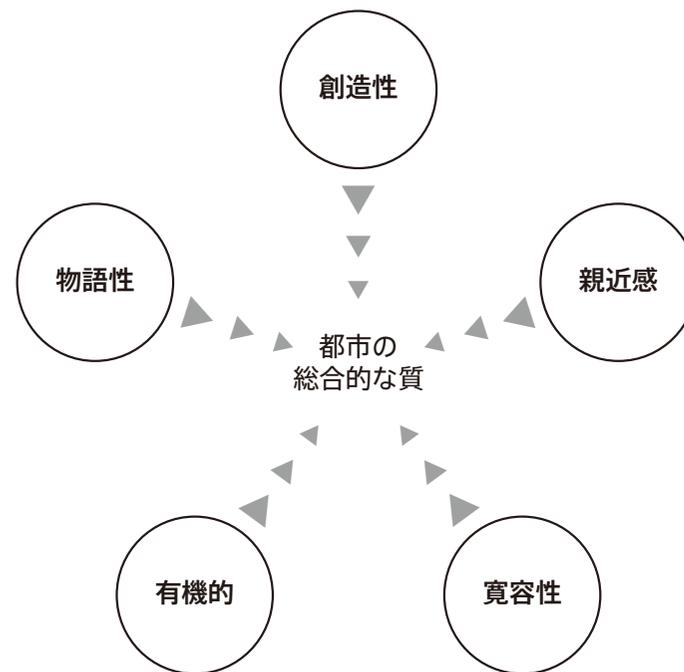
**創造性** 人々の気質や技術、企業活動や経済的活力、歴史的建造物や景観などの地域の特性が活かされ、個々の特徴が相互に関連し、社会状況を見据えた先進的なものごとを生んでいる、創造性の高い風景

**親近感** 人と人、人と自然のふれあいなどの場や人々の生活・活動に呼応した快適な街並みが形成され、活発な人々の交流や活動があり、新たな人やものごととの出会いが生まれている、親近感のある風景

**寛容性** 世代や国籍などの人の特徴、様々な住まい方・働き方、それぞれの地域の特徴などが尊重され、人々による新たな挑戦・失敗を受け入れながら発展している、懐の深い、寛容性をもった風景

**有機的** 人々の生活や企業・地域団体などの活動、公共施設や自然環境などの諸要素、都心部・郊外部・他都市などの多様な地域が密接に連携し、柔軟につながりながら全体として自律している、有機的な風景

**物語性** 地形、自然、街並み、暮らし、歴史、文化などの特徴を見出し、各地域や活動の文脈としてつないでいくことで、愛着や誇りが生まれ、奥行きのある風土が育まれている、物語性のある風景



質的な5つの価値が都市の基礎的要素(安全性や機能性、経済性など)も充実させ、都市の質を総合的に高めていく

## 第4章 取り組み方

取り組み始めるために



取り組み方を考える際のヒント

思い描いた風景の実現のために取り組むにあたり、  
取り組み方を考えてから始めることで、より活動が明確かつ円滑になり、  
実現の可能性が高まります。

ここでは、取り組み方を考える際のヒントとして姿勢・視点・行動を挙げます。  
思い描かれた風景を実現するための活動には、様々な人が関わるのが予想されます。

その際、関わる個々が、その活動に対してどのような立ち位置で臨むか(姿勢)、その立ち位置としてどこを重視するか(視点)、そして何をすればいいか(行動)を考えて臨むことで、その活動は組織力と機動力をもち、実現性のあるものとなります。また、これらは活動に関わる他者を理解し他者との関係を意識することでより明確になります。そのため、個々が姿勢・視点・行動を考え、他者と共有することが重要です。

個々の暮らしは思い描いた風景を実現してはじめて豊かなものとなり、実現された風景の積み重ねが横浜も豊かにしていきます。そのため、実現することが重要であり、取り組み方が重要なのです。

# 第5章

## 都市デザイン行政の取組

都市デザイン行政の描く風景

### 横浜の都市デザイン行政が思い描く風景

#### 都市デザイン活動が日常化している都市

都市デザイン行政が思い描く横浜らしい豊かな風景とは、横浜において個々が都市デザイン活動に日常的に生き生きと取り組んでいる風景であり、そうした活動が生み出す風景が集積して形成される豊かな風景の実現に向けて取り組みます。

#### 姿勢

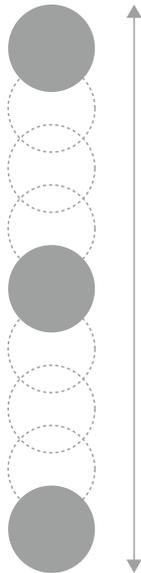
「舵取り」として  
日常化に臨む

【舵取りとしての都市デザイン行政の役割 概念図】

先頭に立つ  
例: 事業提案、  
モデル事業、社会実験など

併走する  
例: 協議、調整など

背中を押す  
例: 情報公開、制度改善、  
評価など



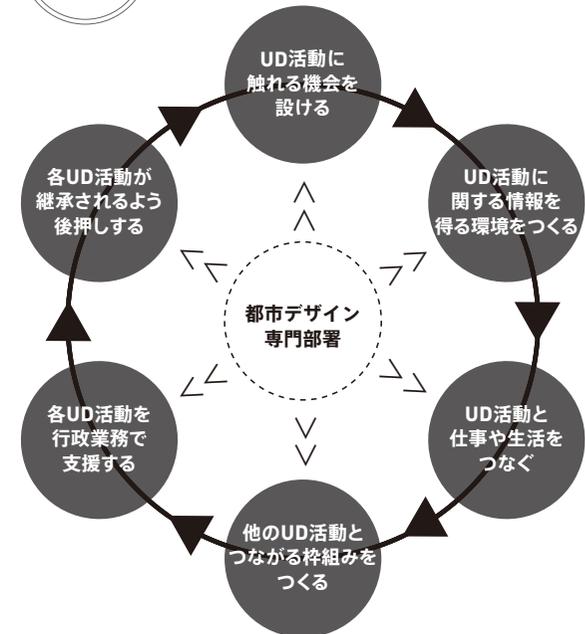
#### 視点

舵取りとして  
5つの視点を重視する

1. 都市全体を俯瞰する
2. 様々な要素をつなぐ
3. ものごとの本質をつきつめる
4. 持続的な効果をもたらす
5. 変化の余地をのこす

#### 行動

日常化プロセスを  
組み立て、推し進める



【都市デザイン活動の日常化6段階プロセスと専門部署 概念図】  
※UD活動=都市デザイン(Urban Design)活動

# 別章

## 風景スケッチブック

豊かな暮らしを思い描く

本概略版には風景描き込み例のみ掲載していますが、本編には実際に描き込む余白のあるスケッチページを設けています。スケッチページには、今、既にあると想定する地形や建物を予め描いていますので、それを下絵に様々な風景を思い浮かべ、描き込むことができます。また、様々な人と一緒に議論する際にイメージで共有するものとしてご利用頂けます。ぜひ本編の風景スケッチブックをご活用ください。



### 横浜の都市デザイン活動は、 風景を思い描くことから始まります。

横浜らしい豊かな風景をつくる活動は、自分の豊かな暮らしの風景を思い描くことから始まります。

この別章は、都市デザイン活動を始めるために個々が思い描いた風景や他者と議論・共有した風景を綴っておくスケッチブックです。

このスケッチブックには、横浜全域のものと、全域を8エリアに分けたものの計8つのカットをおさめています。これをヒントに様々な風景を思い浮かべてみてください。

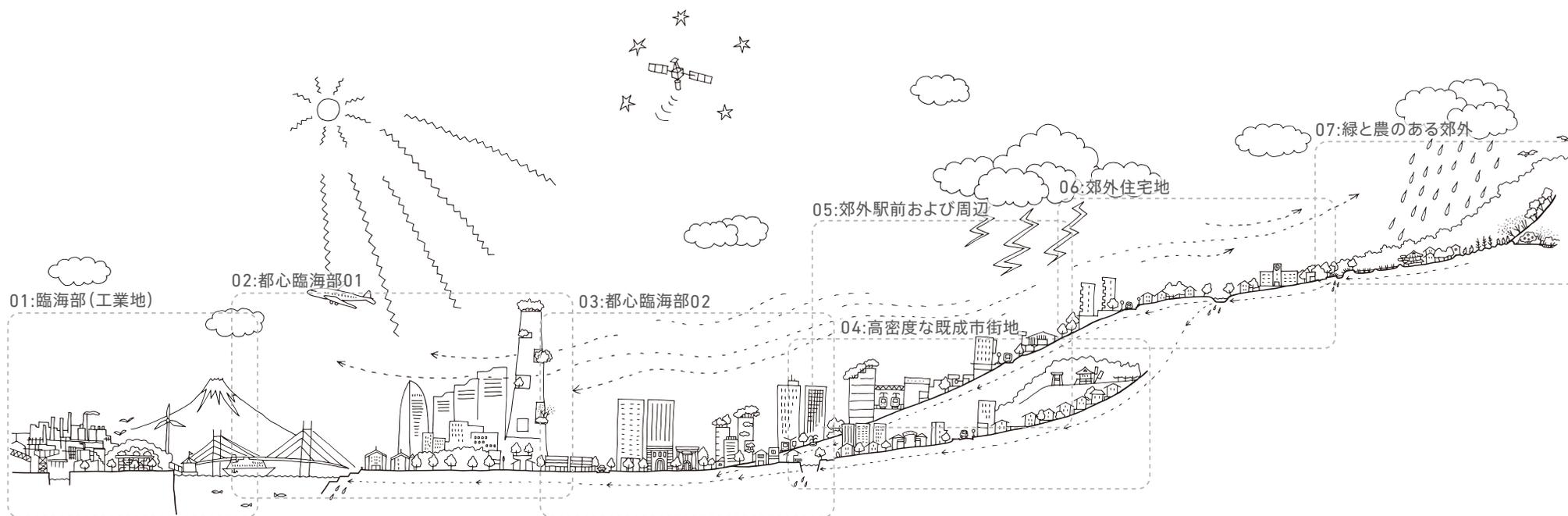
思い描き始めるにあたっては、本章を参照しながら、取り組んでみてください。また、思い描いた後、他者と議論・共有してください。都市デザインの考え方を共有する者同士で描かれた風景を議論すれば、より高めていくことができ、多くの人が実現を望む風景へと変わっていきます。そして、思い描いた風景の実現に向けて、ぜひ取り組んでみてください。

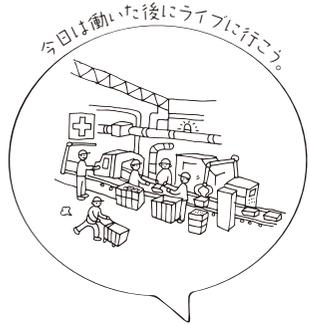
個々が自分の暮らしの豊かな風景を思い描き、その実現に向けて主体的かつ日常的に取り組む状況が生まれた時、個々の豊かな暮らしが横浜を豊かにし横浜の豊かさが個々の暮らしをより豊かにする、豊かさが好循環する「都市デザイン活動が日常化された都市」が実現します。

海から山までの多様なシーンを含む横浜の全域で様々な活動がなされている。また、都市全域を考慮した、緑、水、風などの自然のネットワークが形成され、市内外でヒト・モノ・コト・カネ・情報などの交流が活発に行われている。

- ・地形や気候、インフラの見直しを含めた都市全体の災害対策
- ・居住、労働、保育、介護などの多様なライフスタイル
- ・市域全体の独自の地形・流域などの環境や資源を活かした環境
- ・海から山を行き来する風の通り道づくり
- ・海から森に至る水でつながる都心部と郊外の水のネットワーク
- ・海辺から、都市の緑地、郊外の緑、里山まで緑がつながる環境

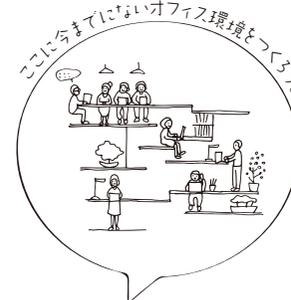
- ・都心居住や郊外週末居住など、郊外と都心を行き来する人の流れ
- ・ビッグデータを活用した活動、生活支援、災害対策
- ・観光、移住など人の流れ
- ・貿易、国際交流、文化交流、技術移転など市外・国外との相互交流と連携
- ・都市全体の交通ネットワークや各地域における交通の維持
- ・都市横浜全体の持続性を高めるための基盤や機能の最適化





利用されずに眠っていた工業跡地が、土地や建物の良さを活かしながら活発に再利用されている。

- ・大型商業施設や公園などへの、大規模な土地利用転換
- ・研究開発施設の誘致や新産業創出
- ・産業遺構や鉄道跡地など工業地帯の歴史的建造物保全
- ・ライブハウスや大規模映画スタジオなどによる利活用
- ・災害時避難用船着き場
- ・基地返還跡地などの大規模な土地利用



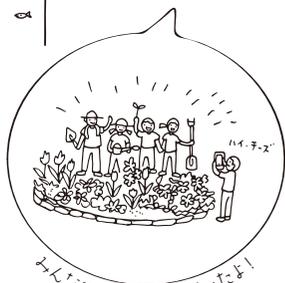
工場や工業地帯でエネルギーの循環が進み、効率的な再利用が図られている。

- ・太陽光、地熱、風力などの自然エネルギー発電と都心への供給
- ・バイオマス、生活ごみの再資源化
- ・環境配慮型の技術開発や実験



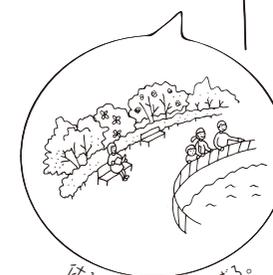
工場とその周辺の環境に魅力を感じて、働く人や訪れる人など様々な人が行き交い、にぎわっている。

- ・工場夜景観光、テクノスケープ観光
- ・オープンファクトリー、ワークショップ
- ・魅力的な護岸や水際線
- ・子どもたちへのエリア開放・見学など学びの場



工業地帯が緑にあふれ、その維持・管理をみんなで協力して行っている。

- ・虫や鳥、生物が棲むビオトープとそのネットワーク
- ・森づくりや水際線の緑化
- ・レクリエーションの市民参加による活用



# 02 都心臨海部01 描き込み例

海から見た視点を意識し、美しい港の景観が創り出されている。

- ・水際線の積極的かつ特徴的な緑化とオープンスペースの連続的な演出
- ・港らしい遺産の積極的な活用(クレーン、倉庫、工場など)
- ・横浜港の代名詞となりうる象徴的な施設
- ・高層建築物の先進的なデザインへの取組
- ・まちや富士山への眺望



道路・公園等の公共空間が建物とともに活用され、観光客や市民も区別なく、楽しい交流が生まれ、居心地の良いまちとなっている。

- ・活発に活用される公開空地やパブリックスペース(オープンカフェ・レストラン、街頭ライブなど)
- ・公的空間の一体的な緑花(道路×公園×建物外壁)
- ・コミュニケーションスペースづくり
- ・港の見える見通し景観の確保など絵になる眺めづくり
- ・マルシェなど都心部での農のアピール
- ・雨の日でも景観を楽しめる施設



川辺・海辺の開放が進み、水辺が市民の日常的な憩いや観光目的地の中心となり、様々な体験が提供されている。

- ・水際のレストラン等商業利用
- ・都市の特徴を活かしたアートイベントやインスタレーション
- ・水上(海上)利用(カヤック、水上レストラン、イベント用フロートなど)
- ・水上交通や水陸両用観光バスなどの水域交通
- ・生物等の力を活かした水質浄化



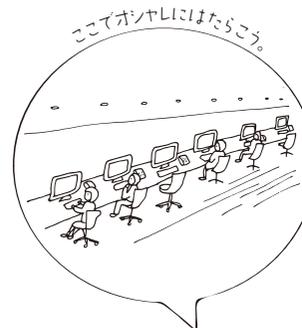
歴史的景観が面的に保全され、歴史的建造物の活用・再生が進み、文化・芸術・観光・MICEに資するユニークベニューとして積極的に活用されている。

- ・歴史を生かしたユニークベニューのプロモーションなど観光MICEとの連携
- ・橋梁や河川など、都市の自然資源の活用
- ・ウェディングの似合う街並み
- ・歴史的建造物の保全やリノベーションなどによる不動産事業
- ・歴史的建造物を活用した文化芸術観光拠点

# 03 都心臨海部02 描き込み例

都心環境が向上し、国内外の多く人が訪れたり、移り住んだり、働いたりしている。

- ・市庁舎跡地、山下埠頭等の大規模な土地利用転換
- ・都心居住、職住近接によるライフスタイル
- ・建物の低層部ににぎわいと街並み
- ・都市空間演出(ライトアップやイルミネーション、ウォールペイント等)



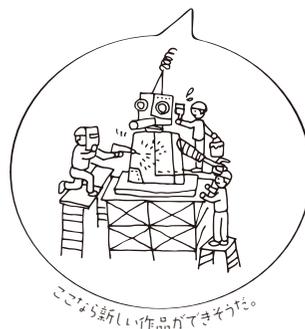
人や環境にやさしい公共交通など、移動手段が多様化し、都心臨海部をワイドに移動・観光できるようになっている。

- ・シェアモビリティ(自転車、電気自動車、電動バイク)
- ・LRT、接続バス等の新たな交通
- ・スロー交通を考えた道路
- ・デジタルサイネージなどによるまちの回遊性を高める案内
- ・歩行者空間の快適なネットワーク



眠っている空間や低利用だった空間が、個性的な空間として生まれ変わって新しい使い方をされている。

- ・防火帯建築などのリノベーション
- ・サードプレイス
- ・雑然としつつも交流が活発でにぎやかな空間のあるまち
- ・街並みと調和し、にぎわいを創出する屋外広告物
- ・ニッチな空間を活かしたデザイン



様々な分野や職種の人が住み、働くまちとして定着し、文化・産業・教育が活発なまちになっている。

- ・文化芸術活動拠点づくりと活用
- ・創造産業や起業家を集積・育成する支援組織、市民スクール
- ・横浜デザインフェスティバル、トリエンナーレ等芸術フェスティバル
- ・創造的な保育環境づくりなどの新たな取組
- ・介護や育児が仕事と両立して、楽しめる生活環境づくり

# 04 高密度な既成市街地 描き込み例

坂道など地形を活かした景観を意識した環境が  
つくられ、地域全体で保全活動をしている。

- ・海や港、富士山などの眺望の確保
- ・坂道や住宅地など地形や特性を活かした景観形成と魅力づくり
- ・防犯パトロールの体制づくり
- ・道路や公園などの地域による管理・運営

災害対応力を高めつつ、坂道や路地、小広場を魅力的  
に演出するなど、下町らしい風情も感じるまちづくりが  
進んでいる。

- ・まちの小広場整備
- ・防火性能や耐火性能の高い建物への建て替え
- ・坂道、路地をコミュニティ醸成の場に
- ・楽しく防災を知り訓練ができるイベント
- ・建物等のセットバックと道路の拡幅



路地の雰囲気や木造密集地域ならではの特徴を活かし、  
子供のための遊び場や地域住民が交流する場が生まれて  
いる。

- ・空き家に対して、小規模小売店舗の新規出店などによる利活用や、オープンスペース化等によるまちのゆとりづくり
- ・通りを挟んだまちのまとまりの形成
- ・地域による日常的な路地の維持管理

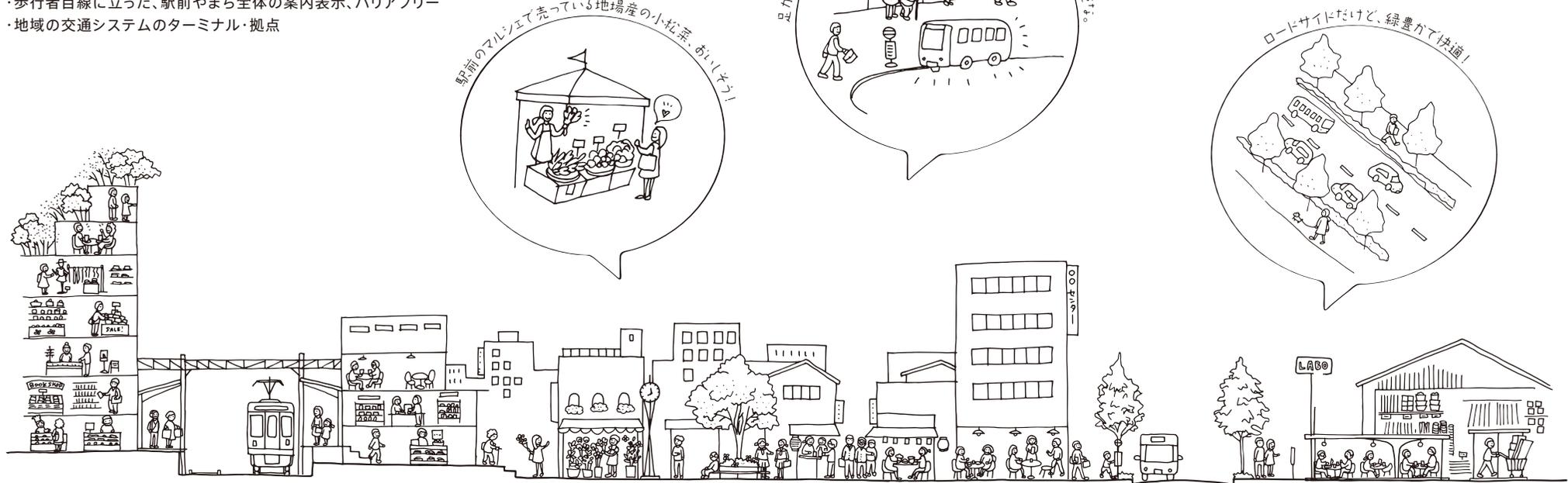
# 05 郊外駅前および周辺 描き込み例

だれもが移動しやすく、使いやすい、ユニバーサルデザイン志向のコンパクトな駅周辺が形成され、常に人が行きかい、にぎわう駅前になっている。

- ・歩車の平面分離、歩行空間の充実
- ・歩行者優先の駅前広場
- ・歩行者目線に立った、駅前やまち全体の案内表示、バリアフリー
- ・地域の交通システムのターミナル・拠点

郊外のロードサイドショップ等が周辺の地域活動と連携したり、不要になった施設が地域活動の場として使われたりしている。

- ・様々な空間を利用した市場や祭り
- ・空き店舗や廃校を地域・多世代交流の施設としての利活用
- ・道路沿いの緑化やサイン計画など歩行者空間化
- ・スプロールの抑制

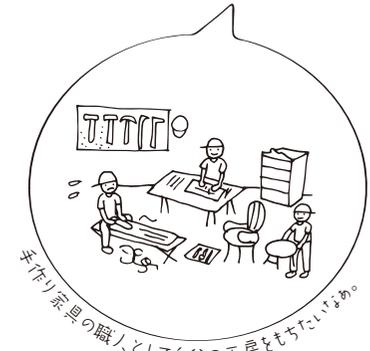


駅前に生活支援施設や地域の人々が集える広場があり、店舗などが出店し、豊かなコミュニティが生まれている。

- ・朝市、夕市、マルシェ、オープンカフェ
- ・図書館や区庁舎、道路、広場・公園など、公共施設をコミュニティの場として活用
- ・地域のエリアマネジメントのセンター

工場・工房のあるまちが「ものづくりの営みがあるまち」として人気となっている。

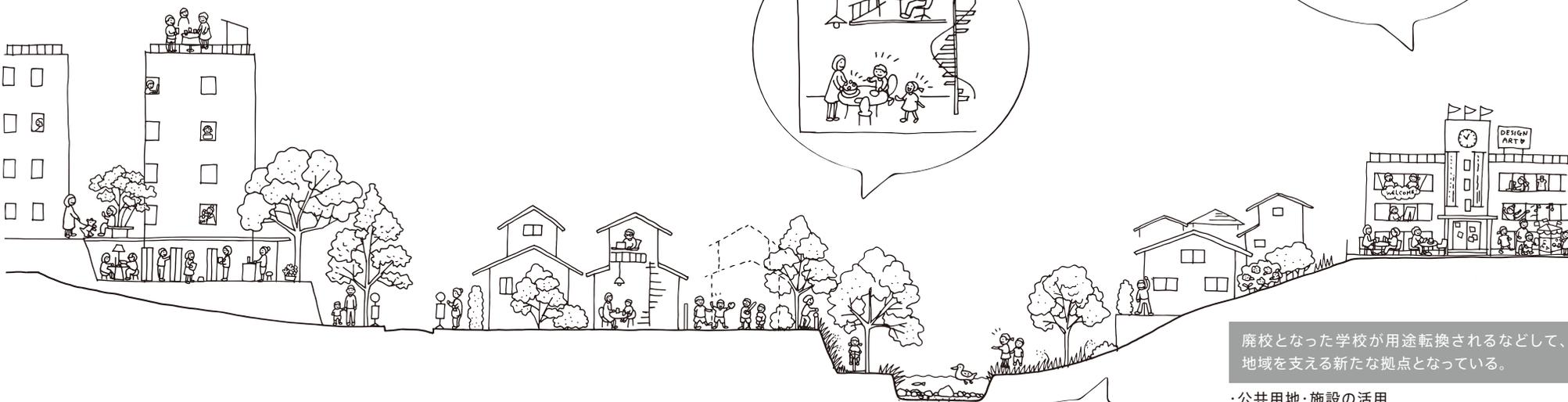
- ・職住近接
- ・オープンファクトリー
- ・市民工房
- ・若い人の起業支援





郊外の住宅地が徐々に再生し、新しい郊外ライフが営まれている。

- ・発電や地域でのシェアなど、空き地、耕作放棄地の活用
- ・高齢者が外出したくなる街のしつらえ
- ・緑や景観など環境豊かな歩行者空間の形成
- ・複合した用途や機能をもった住宅地域
- ・郊外住宅取得促進（税制優遇、農園付き住居など）
- ・カーシェアリングなどライフスタイルにあった交通システム
- ・移動スーパーなどの郊外型サービス



団地ならではのゆとりある建物や敷地の特徴を活かして、多様なライフスタイルにあった再利用がされている。

- ・団地の区画全体の再生と部分的な一般開放
- ・各地区にあったコミュニティ空間の形成
- ・高齢者施設として一部開放するなどの多機能型団地
- ・公園の柔軟な活用の促進
- ・団地の空き室の起業オフィスとしての活用

都心で働く必要のない人が移住したり、平日は都心で働く人が週末利用する住居として空き家が利用されたりしている。

- ・郊外移住や週末住宅
- ・週末住宅利用の促進
- ・空家除却と空地活用
- ・オープンガーデン



廃校となった学校が用途転換されるなどして、地域を支える新たな拠点となっている。

- ・公共用地・施設の活用
- ・用途の緩和・転換
- ・民間活力やノウハウの導入
- ・地域活動やコミュニティビジネスの拠点形成

# 07 緑と農のある郊外 描き込み例

昔からの曲がりくねった道が、歩行者や自転車等の主要動線として使われ、健康的な暮らしが営まれている。

- ・散策ルート
- ・シェアモビリティ

樹林地や里山に日常的に親しみ、自ら管理作業も行っている。スポーツができる場も多くあり、身近なレジャー、健康づくり、趣味活動の場として定着している。

- ・環境・健康・福祉・生涯学習の複合的視点
- ・元気な高齢者が活躍でき、多世代が交流する機会となる里山保全活動
- ・里山保全の担い手育成や活動支援体制
- ・パン工房など自然の恵みを活かした店舗や飲食店



鳥や虫などの多様な生物や地形・植生ともに暮らすライフスタイルを選ぶ人が移住してきている。

- ・蛭が棲める川辺づくり、渡り鳥定着への取組など、生態系や河川環境の再生
- ・人が集まり憩える空間と機会づくり
- ・自然の中の保育園

大都市近郊の利点を生かした農業が継承され、新規就農者も増えて定着してきている。

- ・営農環境を守っていくための制度づくり
- ・無秩序な用途転換の制限
- ・新規就農者支援、農業体験促進
- ・クラインガルテン(農地の賃借)、援農方式、企業参入など、多様な市民農園の可能性
- ・地産地消

平日は都心で暮らす人たちが空き家と田畑をシェアし、週末になると菜園などをして過ごしている。

- ・空き家活用促進
- ・郊外におけるシェアハウスなどの促進
- ・郊外住宅取得促進の可能性(税制優遇、農園付き住居など)
- ・地域で共有する農園や庭



本概略版は、平成27年4月に策定した「横浜都市デザインビジョン」の概略版であり、本概略版のもととなっている本編が別にあります。本編には、これまでの取組から抽出した横浜の都市デザインの重要なエッセンスが、より詳細に記載されています。また、本編別章には、実際に描き込めるスケッチページを設けています。ぜひ本編もご覧ください。※本編は横浜市都市デザイン室HP等よりご覧いただけます

【横浜都市デザインビジョン—個々の暮らしと横浜を豊かにするための羅針盤—】



## 目次

### はじめに

第1章	横浜の都市デザインの基礎	
1-1	横浜の都市デザインの理念	・・・7
1-2	横浜の都市デザイン活動とは	・・・9
第2章	都市への着眼点	
2-1	着眼点をもつ意味・意義	・・・13
2-2	着眼点が活動に与えるもの	・・・15
第3章	共有する価値	
3-1	価値を共有する意味・意義	・・・19
3-2	共有する5つの価値	・・・21
3-3	価値を共有する効果	・・・23
第4章	取り組み方	
4-1	取り組み方の意味・意義	・・・27
4-2	取り組み方を考える3つのヒント	・・・29
第5章	都市デザイン行政の取組	
5-1	都市デザイン行政が想い描く風景	・・・33
5-2	都市デザイン行政の取り組み方 概要	・・・35
5-3	都市デザイン行政の姿勢	・・・37
5-4	都市デザイン行政の視点	・・・39
5-5	都市デザイン行政の行動	・・・41
別章	風景スケッチブック	
	—風景スケッチブックの意味・意義	・・・53
	—風景スケッチ 00～07	・・・55
付録	横浜の都市デザインに関する資料紹介	・・・87
	用語解説	・・・89

平成27年4月

横浜市

企画・編集・デザイン: 横浜市都市整備局企画部都市デザイン室

別章イラスト: shoko terata

頁数: 100頁

サイズ: A4

色: カラー

形式: データ形式(pdf) ※冊子版の刊行等に関しては都市デザイン室ホームページをご覧ください。



【横浜市デザインビジョン 概略版】

平成27年8月28日 発行

発行： 横浜市

企画・編集： 横浜市都市整備局企画部都市デザイン室

デザイン校正： NOGAN

別章イラスト： shoko terata

